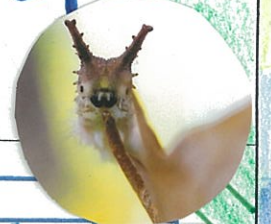


旭山新聞

木林をすくえ 2018



緑丘小学校
四年三組
高橋 温

ぼくたちの守るもの
身近に残る

豊かな自然

その昔、ぼくの住む札幌市にある藻岩山の周辺、円山や旭山にオオムラサキというチョウが数多く生息していたそうです。しかし今ではとても少なくなってしまうしました。ぼくは数少ないオオムラサキを守りたいと思い、2016年に旭山自然調査隊を友達とつくりました。そして今では地域のの方々と連携して活動を行っています。エゾアカガエル・エゾサンショウウオ・日本サリガニなどを観察し、生き物のすみかとなる木林についてや生き物どうしのつながりについて考えていきます。

オオムラサキとは？
豊かな自然がある所に生息するタテハチョウ科のチョウ。日本の国チョウで、チョウマニアの間では高値で取り引きされ、らんかくされています。

オオムラサキの一生



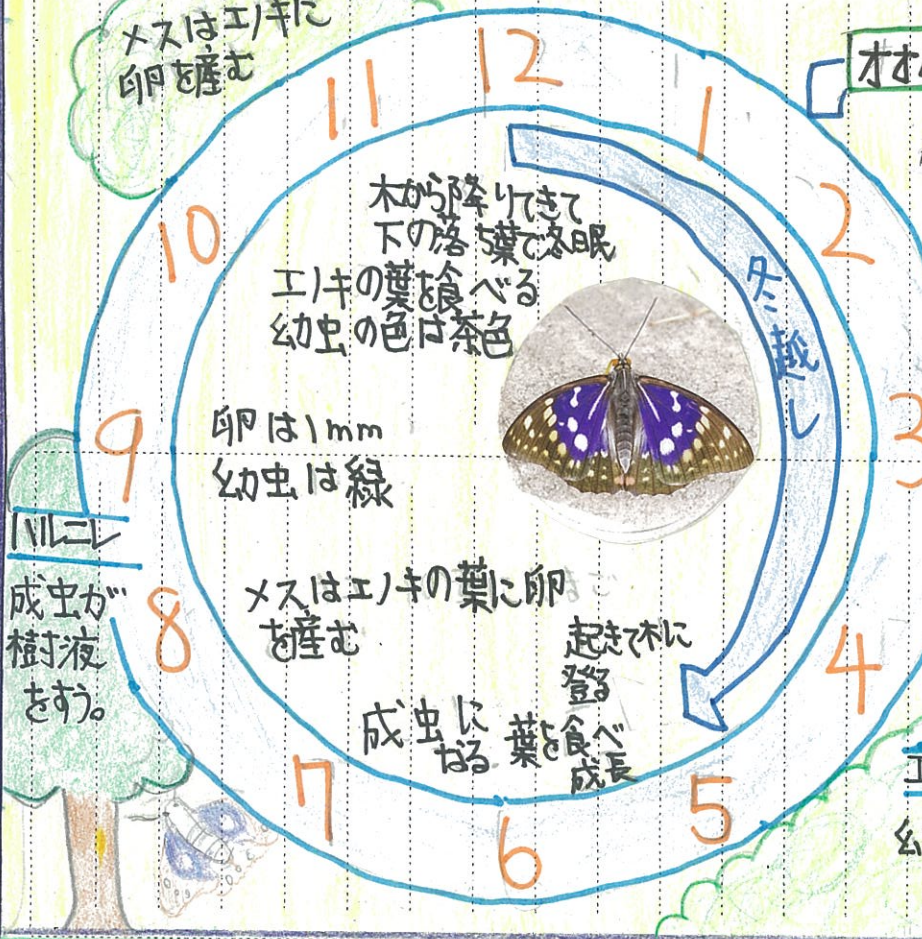
落ち葉の下で眠る。



エゾアカガエル

幼虫が葉を食べる。

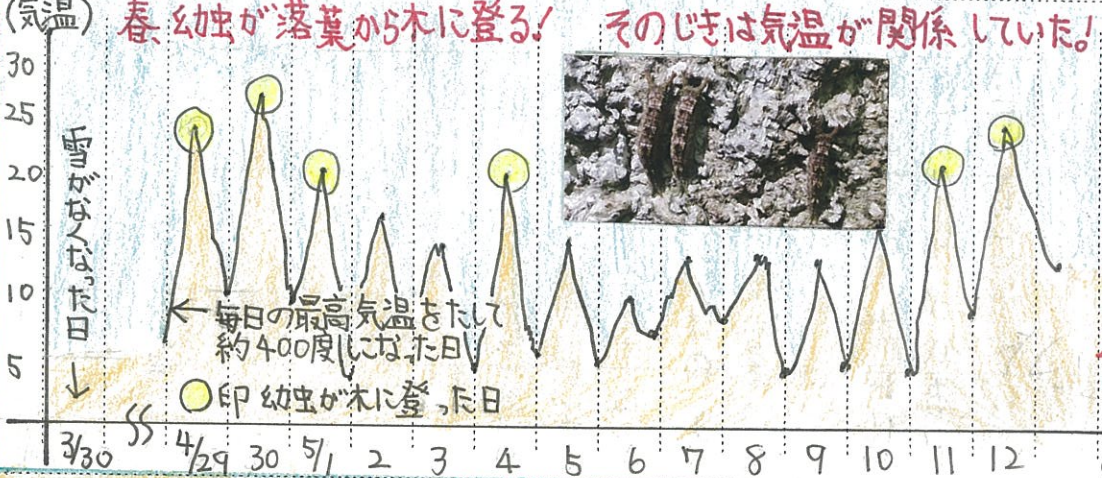
○エサとなる木を植える
○幼虫の冬越しを助ける
○らんかくから守る
このように取り組みを行い、生能についても調査・観察しています。



今年の発見

今年、オオムラサキの調査で発見がありました。去年は満月の日に幼虫が木に登りはじめたと思っていたのですが、今年は温度計を設置して調査したところ、積算温度が約400度を越えて、20度を越える温かい日に木に登ることが分かりました。カエルやエゾサンショウウオの卵のかえる時も気温が関係していたので、生き物にとって気温は重要な物だと思いました。

気温との関係



活動で分かった4つの問題点

1. 保護しても心ない人にとられてしまう。
2. 旭山記念公園はもうすぐ50才。生き物のエサとなる若い木が少なくなっている。
3. 外来種という強い敵がしん入している。
4. 地球温暖化が進んでいる。

編集後記

ぼくは活動を通じてある言葉がよく出てきたと思います。その言葉は気温です。生き物は平均気温が一度上がっただけでも絶滅してしまう種があります。地球温暖化を防止するために日頃の生活での、少省エネルギーに取り組み重要性を感じました。これから、1. 森を守る。2. 少省エネルギーに取り組み。3. 生き物と気温の関係をもっと知ってもらうこと。3つのことも考えながら、身近な自然を守る活動を続けていきたいと思えます。

